

一宮市・尾西市・木曽川町の合併に関する 意識調査結果の概要

平成 16 年 3 月

●目 的

一宮市、尾西市及び木曽川町の合併に対する住民の関心や新市のまちづくりについての意向等を把握し、今後の合併協議に反映していくとともに、市町村合併に対しての住民の関心を高めることを目的に実施しました。

●調査対象及びサンプル数

2 市 1 町に居住する 18 歳以上の住民 10,000 人を無作為に抽出しました。

●調査期間

平成 16 年 2 月 3 日から平成 16 年 2 月 26 日まで

●実施手法

抽出した対象者に郵送にて調査票を配布し、返信用封筒を同封し回収しました。なお、調査票と合わせて、住民説明会用資料「一宮市・尾西市・木曽川町合併協議の状況報告書」も同封しました。

●回収結果

有効配布数は 9,929 であり、回収数 6,223 (回収率 62.7%)、有効回答数は 6,143 (有効回収率 61.9%) です。

■本報告書の見方について

表中においては、有効回答の実数と、その割合を百分率(%)で示し、小数点第 2 位を四捨五入して算出しています。したがって、割合の合計が 100%にならない場合もあります。

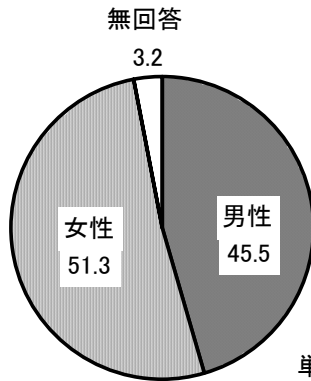
一宮市・尾西市・木曽川町合併協議会

TEL・FAX: 0586 (73) 1031

ホームページ <http://www.ibk-gappei.jp/>

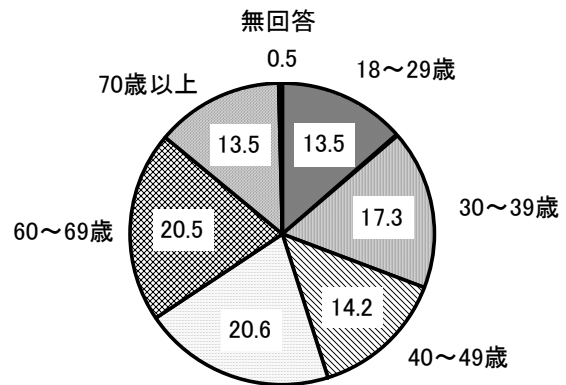
I. 回答者の属性

●性別



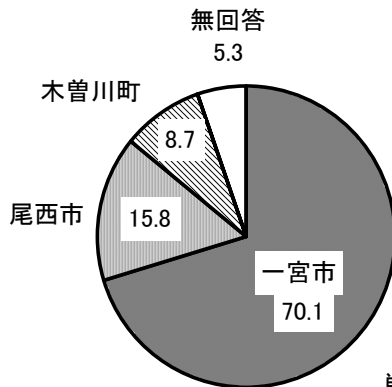
単位: %
総数=6,143人

●年齢



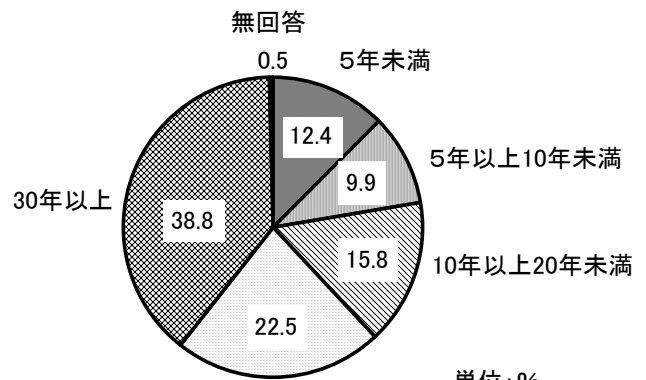
単位: %
総数=6,143人

●お住まい



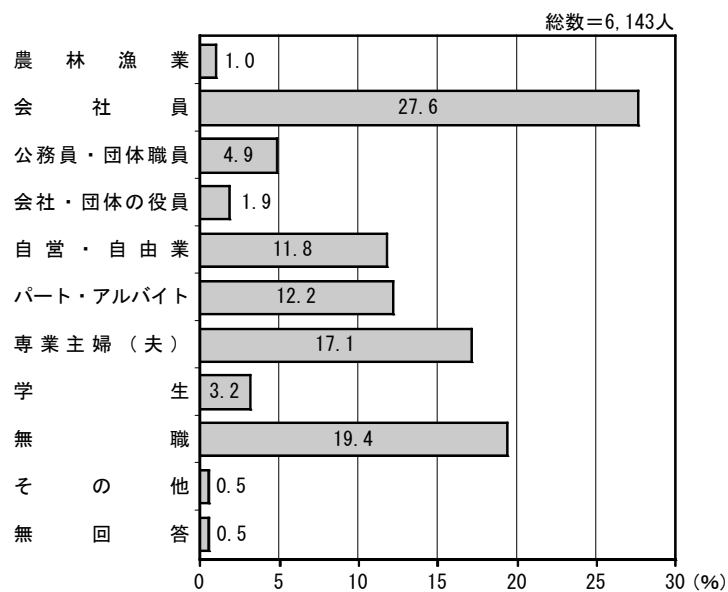
単位: %
総数=6,143人

●居住年数



単位: %
総数=6,143人

●職業



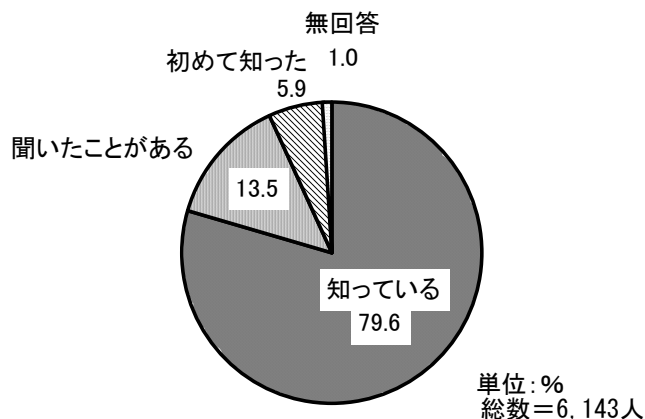
Ⅱ. 一宮市・尾西市・木曽川町の合併について

●合併協議についての認知度

問2 あなたは、一宮市、尾西市、木曽川町で合併協議を進めていることを知っていますか。

【1つだけ選んでその番号に○印】

「知っている」が約80%、また「聞いたことがある」を含めると約93%であり、2市1町が合併協議を進めていることについては、おおむね知られているといえます。

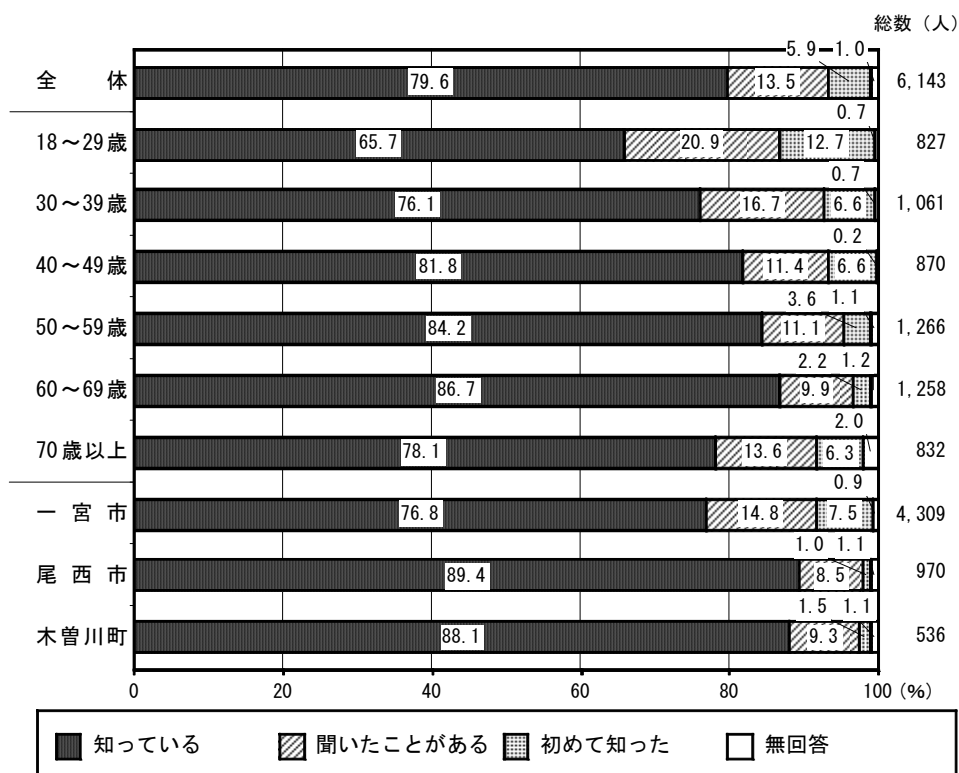


(年齢別)

『40～69歳』において、「知っている」が8割を超えており、認知度が高くなっています。

(地域別)

「一宮市」において若干認知度が低いものの、「聞いたことがある」まで含めると、いずれも90%を超えています。

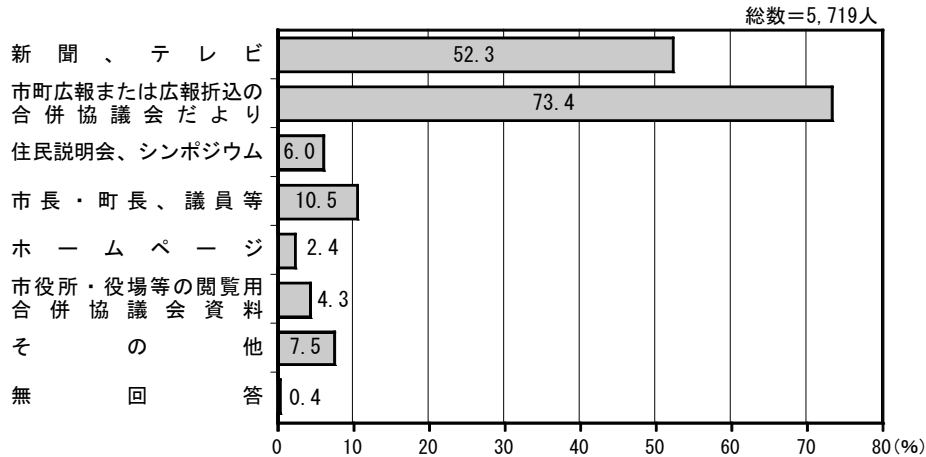


Ⅱ. 一宮市・尾西市・木曽川町の合併について

●一宮市、尾西市、木曽川町の合併協議について知った媒体

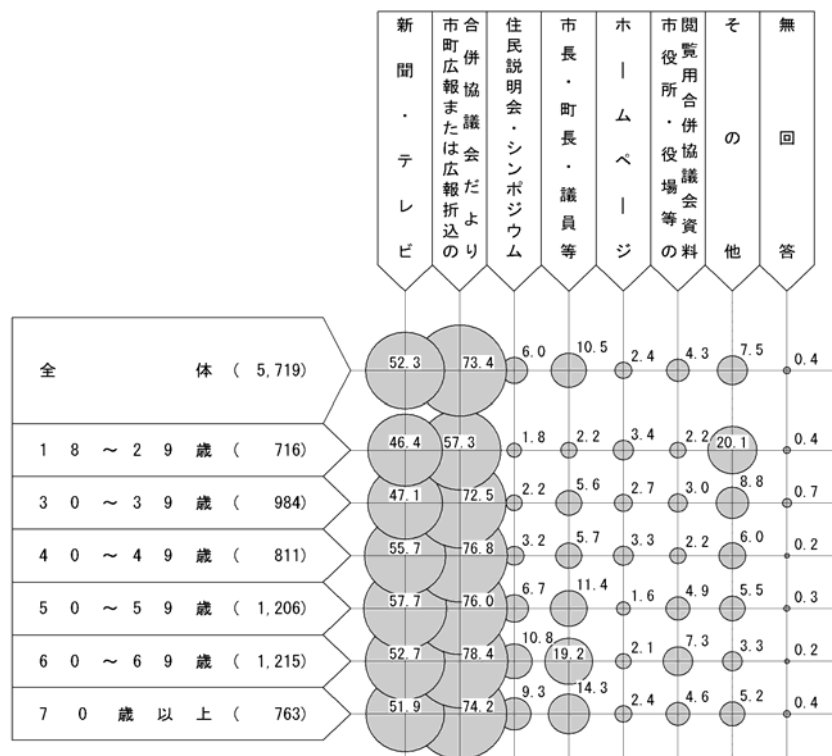
問3 (問2で「知っている」、「聞いたことがある」とお答えになった方におたずねします)
あなたは、一宮市、尾西市、木曽川町で合併協議について、何を通じてお知りになりましたか。【あてはまるもの全てを選んでその番号に○印】

「市町広報または広報折込の合併協議会だより」が約73%、「新聞、テレビ」が約52%と、この2つの項目に回答が集中しています。



(年齢別)

年齢別に見ると『30歳以上』の年齢層で「市町広報または広報折込の合併協議会だより」が7割を超え、『40歳以上』で「新聞・テレビ」が5割を超えます。また、「60～69歳」で「市長・町長、議員等」、「60～69歳」と「70歳以上」で「住民説明会、シンポジウム」という人づてや直接の機会を介して知った割合が目立ちます。



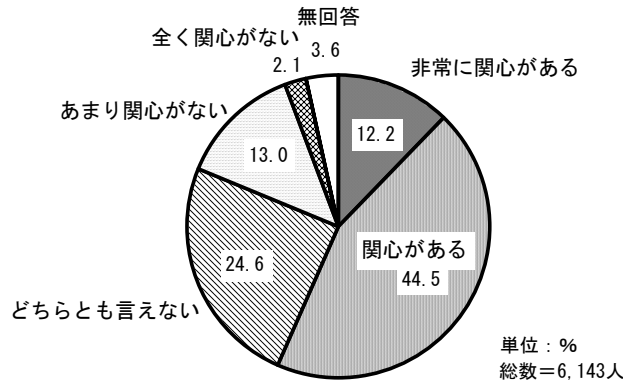
Ⅱ. 一宮市・尾西市・木曽川町の合併について

●一宮市、尾西市、木曽川町の合併についての関心

問4 あなたは、一宮市、尾西市、木曽川町の合併について関心がありますか。

【1つだけ選んでその番号に○印】

「関心がある」が約45%であり、「非常に関心がある」が約12%と、6割近くの方が関心を持っています。一方、『関心がない』と意思表示された方は約15%となっています。

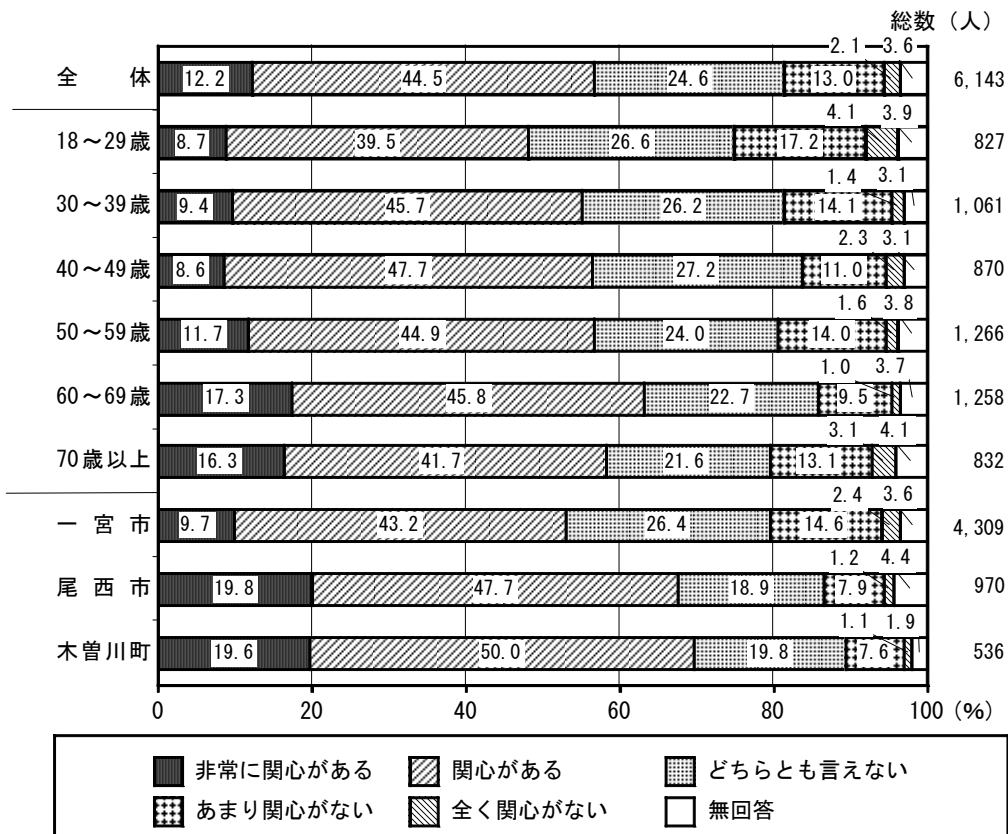


(年齢別)

全体の傾向として年齢層が高くなるほど合併への関心が高くなっているのがうかがえます。特に、「60～69歳」と「70歳以上」では、「非常に関心がある」が他の年齢層に比べ高くなっています。

(地域別)

「尾西市」と「木曽川町」では『関心がある』が7割近くと、高い関心を示している一方で、「一宮市」では相対的に関心が低い傾向にあります。

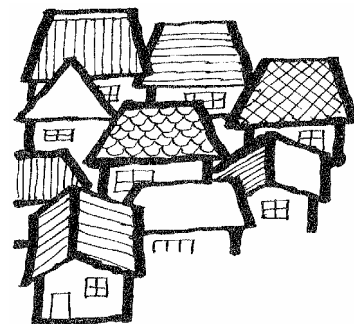
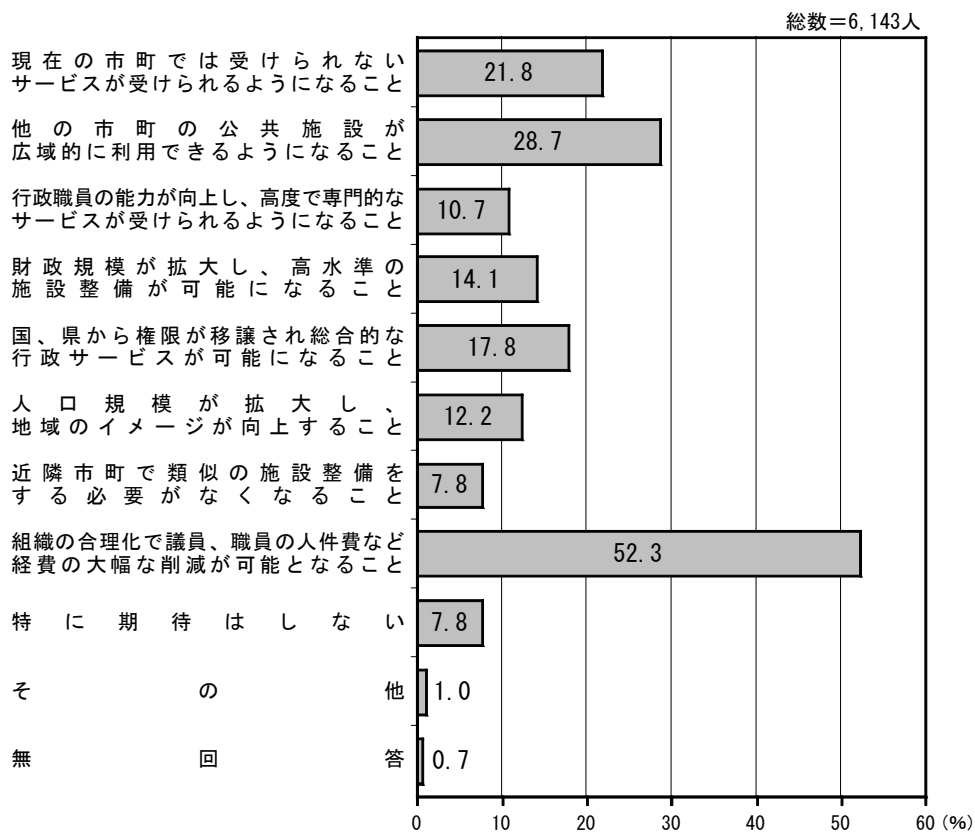


Ⅲ. 合併についての期待と不安

●合併についての期待

問5 あなたは、一宮市、尾西市、木曾川町が合併するにあたって、どのような点に期待をしますか。【2つまで選んでその番号に○印】

過半数の方が「組織の合理化で議員、職員の人件費など経費の大幅な削減が可能となること」をあげており、合併による行政改革への期待が極めて高いことがうかがえます。また、「他の市町の公共施設が広域的に利用できるようになること」が約29%、「現在の市町では受けられないサービスが受けられるようになること」が約22%と続いており、施設の広域的利用やサービスの広域的な提供を求める声が強いうかがえます。



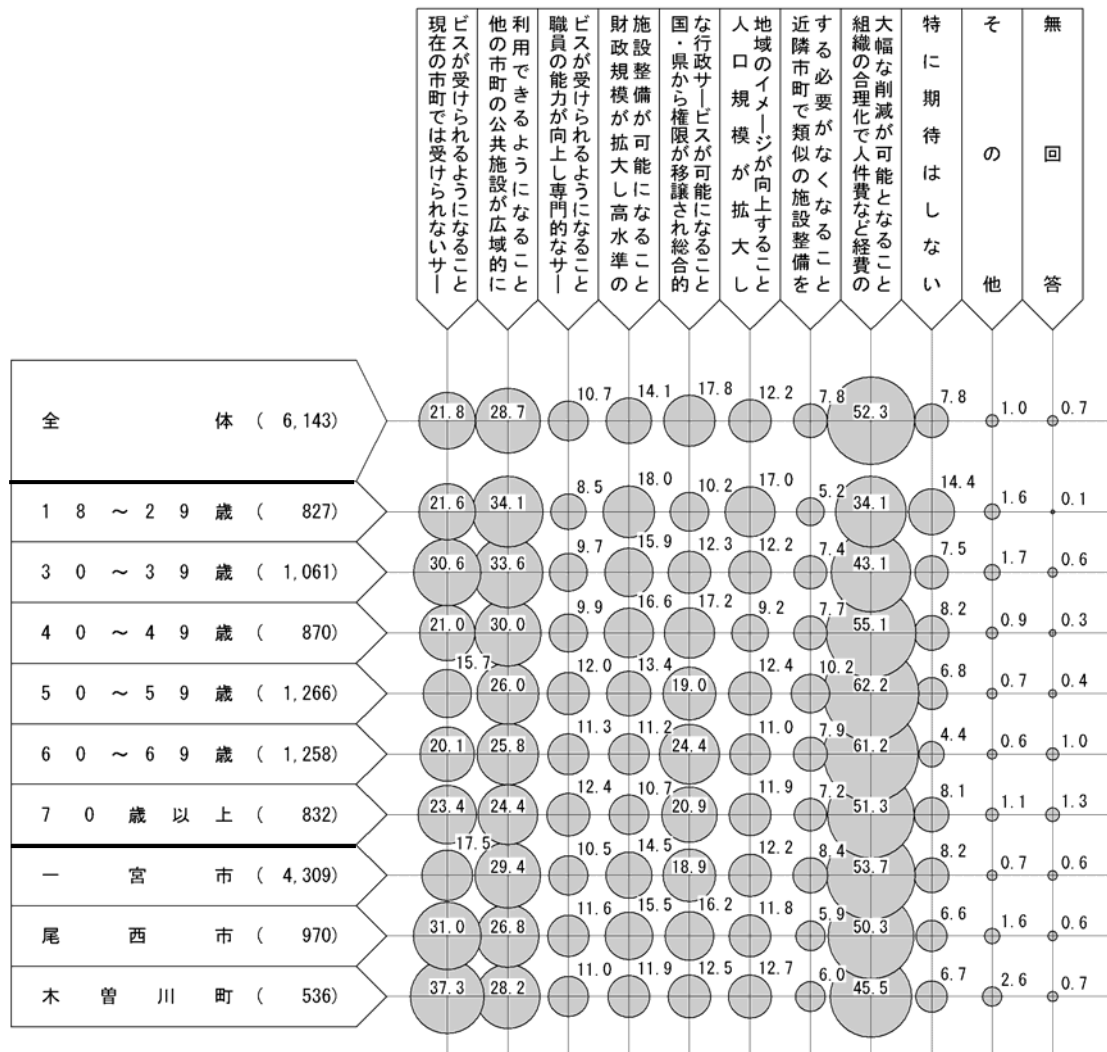
Ⅲ. 合併についての期待と不安

(年齢別)

おおむね高い年齢層が「組織の合理化で議員、職員の人件費など経費の大幅な削減が可能となること」に期待する割合が高く、「他の市町の公共施設が広域的に利用できるようになること」と「現在の市町では受けられないサービスが受けられるようになること」について期待する割合が低い傾向にあります。逆に若い年齢層ほど、逆の傾向が見られます。

(地域別)

「一宮市」では、「組織の合理化で議員、職員の人件費など経費の大幅な削減が可能となること」が過半数を超える一方で、「現在の市町では受けられないサービスが受けられるようになること」は約18%で、「木曽川町」の半分以下です。逆に、「尾西市」と「木曽川町」では「現在の市町では受けられないサービスが受けられるようになること」に期待する声が相対的に強く、特に「木曽川町」ではその傾向が顕著です。

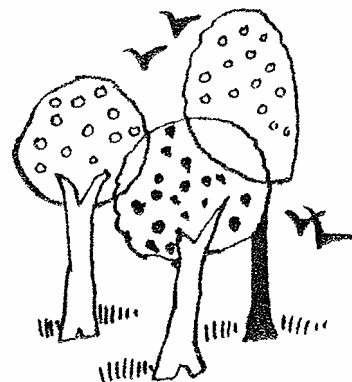
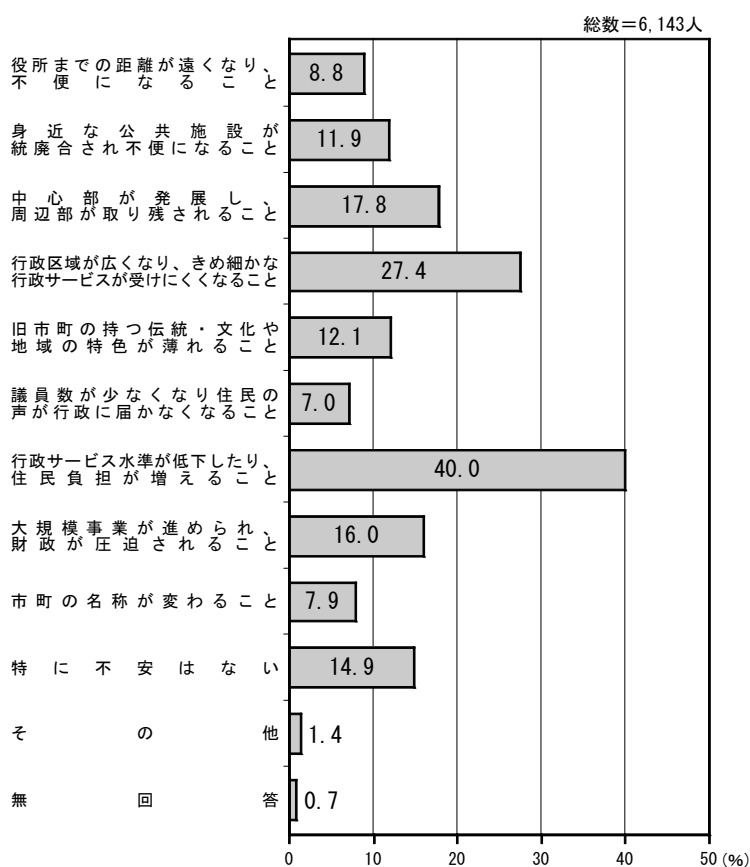


Ⅲ. 合併についての期待と不安

●合併についての不安

問6 あなたは、一宮市、尾西市、木曽川町が合併するにあたって、どのような点に不安を感じますか。【2つまで選んでその番号に○印】

「行政サービス水準が低下したり、住民負担が増えること」が40%、次いで「行政区域が広くなり、きめ細かな行政サービスが受けにくくなること」が約27%となっており、行政サービスや住民負担の面での水準低下を懸念する声が強いことがうかがえます。そのほか、「中心部が発展し、周辺部が取り残されること」と地域格差を懸念する声、「大規模事業が進められ、財政が圧迫されること」といった財政的な面を懸念する声も強い一方で、「特に不安はない」という意見も5番目に高い結果となっています。



Ⅲ. 合併についての期待と不安

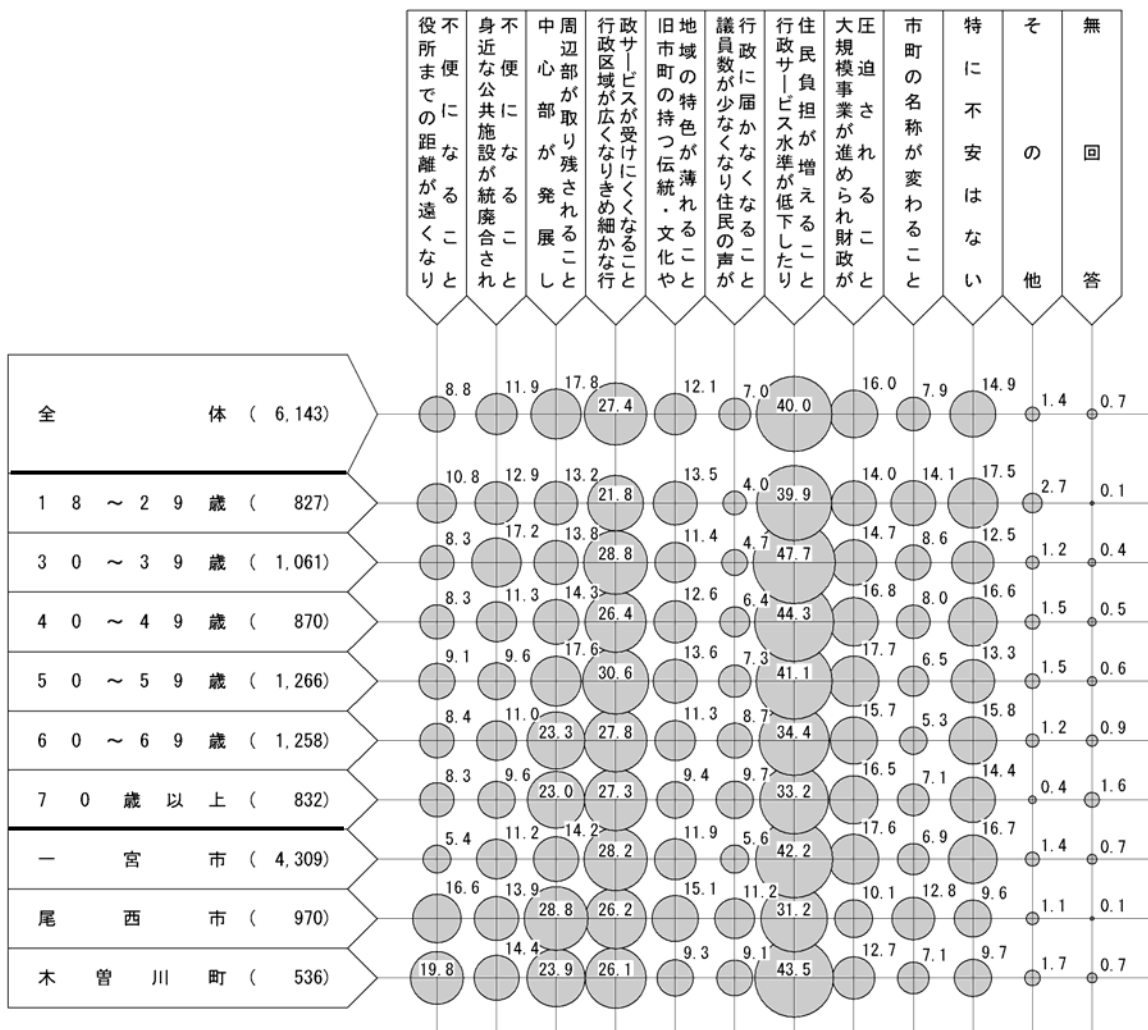
(年齢別)

「30～39 歳」を中心に若い年齢層ほど「行政サービス水準が低下したり、住民負担が増えること」が高い傾向にあり、逆に、高い年齢層では「中心部が発展し、周辺部が取り残されること」についての懸念が強くなっています。また、「市町の名称が変わること」については、「18～29 歳」の若い世代が約 14%となっており、他の世代に比べて際立っています。

(地域別)

「一宮市」では、「行政サービス水準が低下したり、住民負担が増えること」と「行政区域が広くなり、きめ細かな行政サービスが受けにくくなること」の 2 点に集中していますが、その次に「特に不安はない」の割合が高いのが特徴です。

「尾西市」と「木曽川町」でも、傾向としては「一宮市」とおおむね同じですが、「一宮市」よりも回答が分散しています。特に、「中心部が発展し、周辺部が取り残されること」と「役所までの距離が遠くなり、不便になること」の割合が高くなっており、地域格差を懸念する声が強くなっています。「尾西市」では「中心部が発展し、周辺部が取り残されること」と「行政区域が広くなり、きめ細かな行政サービスが受けにくくなること」の順位が他市町に比べて逆転しており、地域格差についてより危機感が強いことがうかがえます。「市町の名称が変わること」については、「尾西市」の割合が高く、逆に、「木曽川町」では「特に不安はない」よりもポイントが低いなど、それほど抵抗感がないことがうかがえます。



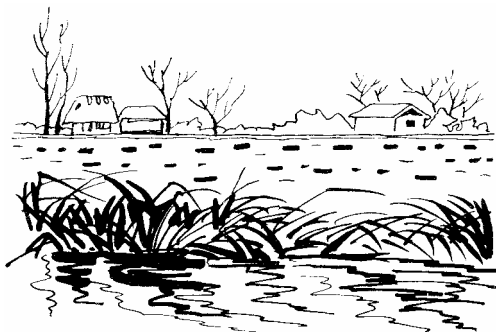
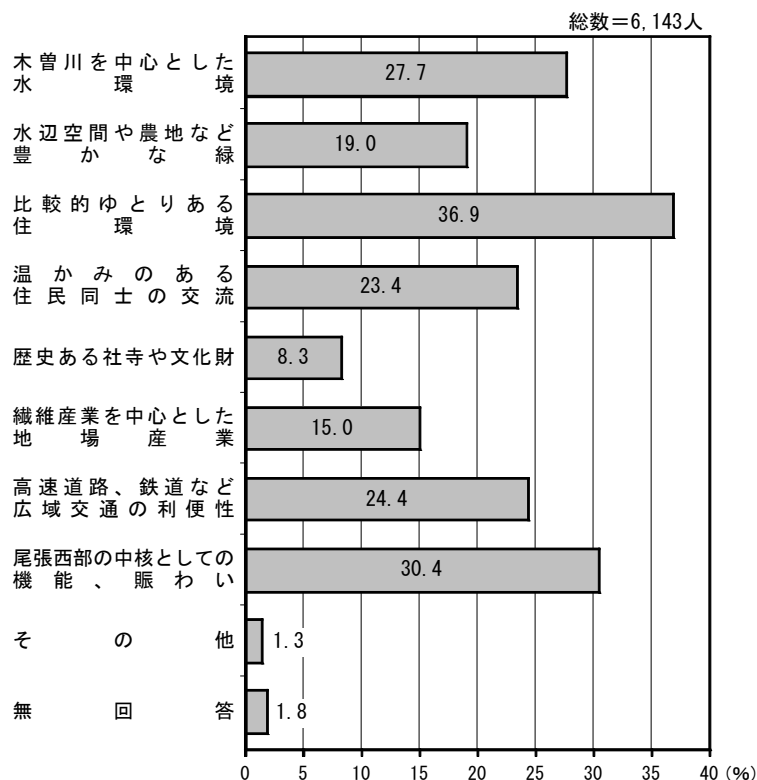
IV. 合併後のまちづくりについて

●合併後のまちづくりに生かすべき2市1町の特徴

問7 合併後のまちづくりを進めていく上では、一宮市、尾西市、木曽川町の持つ特色(地域資源)を最大限に生かしていくことが必要と考えていますが、あなたは、どのような特色を生かしていくことが重要とお考えですか。

【2つまで選んでその番号に○印】

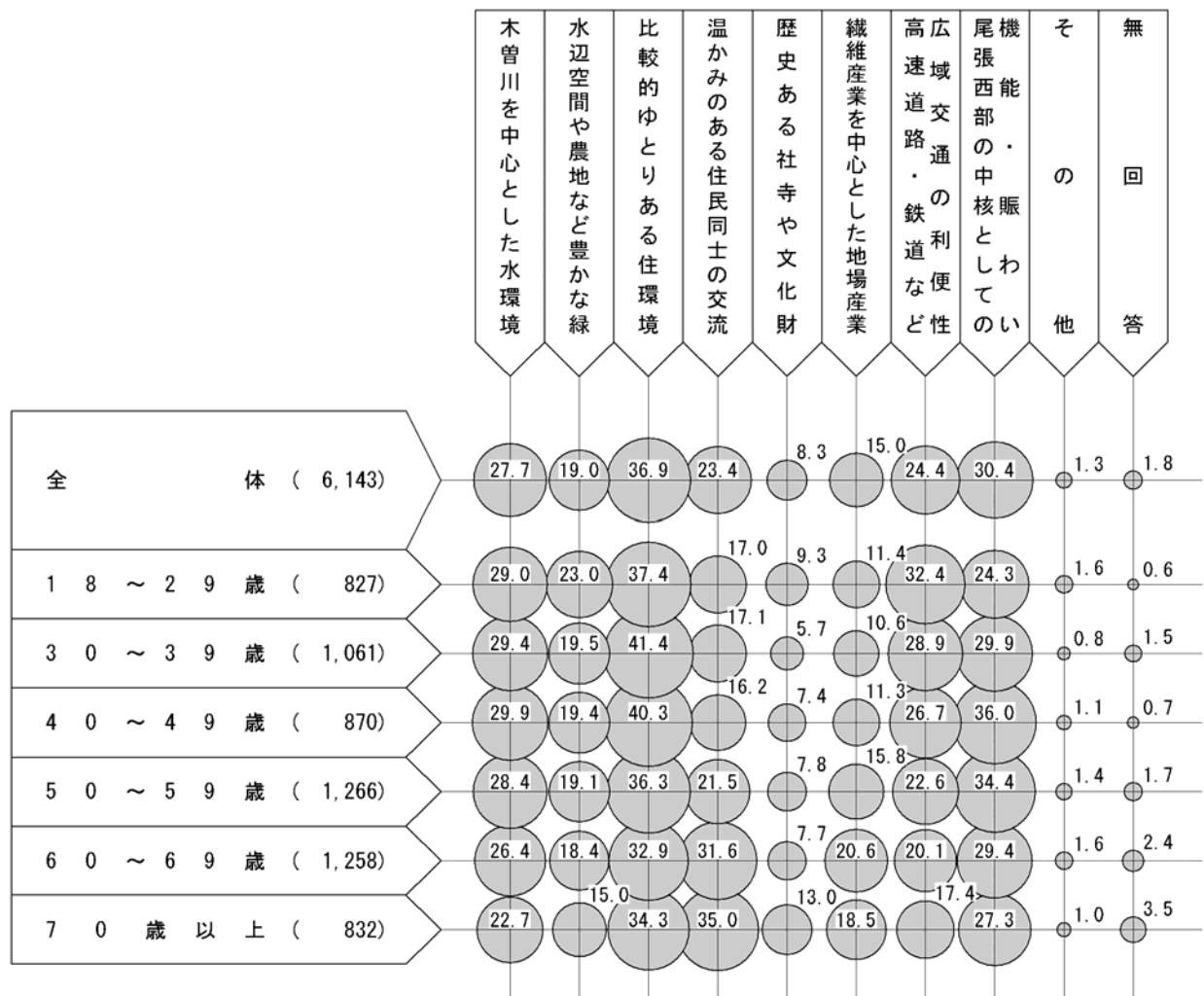
「比較的ゆとりある住環境」が約37%、「尾張西部の中核としての機能、賑わい」が約30%、「木曽川を中心とした水環境」が約28%であることなど、回答が分かれています。大別すると豊かな住環境、豊かな水辺・緑、尾張西部の都市的な利便性の3点をまちづくりに生かしていくことが必要であるという結果になっています。



IV. 合併後のまちづくりについて

(年齢別)

若い年齢層では「木曾川を中心とした水環境」、「水辺空間や農地など豊かな緑」といった現況面の特色、あるいは「高速道路、鉄道などの広域交通の利便性」を支持する傾向が強く、逆に、高い年齢層では「温かみのある住民同士の交流」や「繊維産業を中心とした地場産業」を支持する傾向があります。

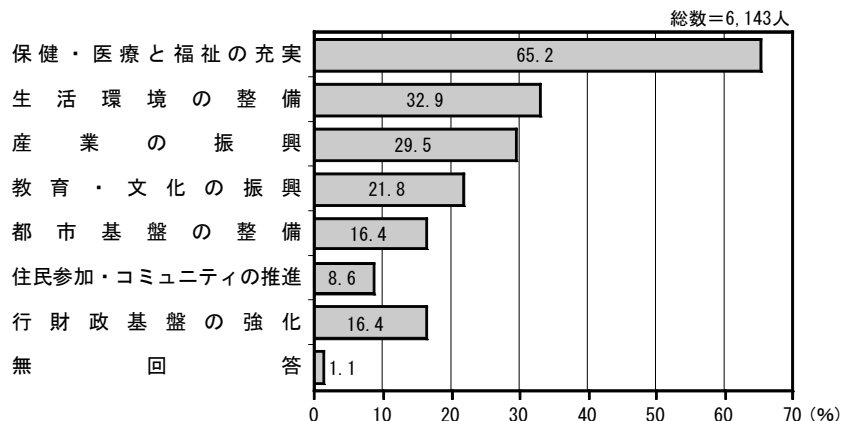


IV. 合併後のまちづくりについて

(2) 新市のまちづくりに際して力点をおくべき施策分野

問8 あなたは、新市のまちづくりを進めるにあたり、どのような施策に力点をおくべきだと思いますか。【2つまで選んでその番号に○印】

「保健・医療と福祉の充実」が約65%と圧倒的に高く、次いで「生活環境の整備」が約33%、「産業の振興」が約30%と目立っています。

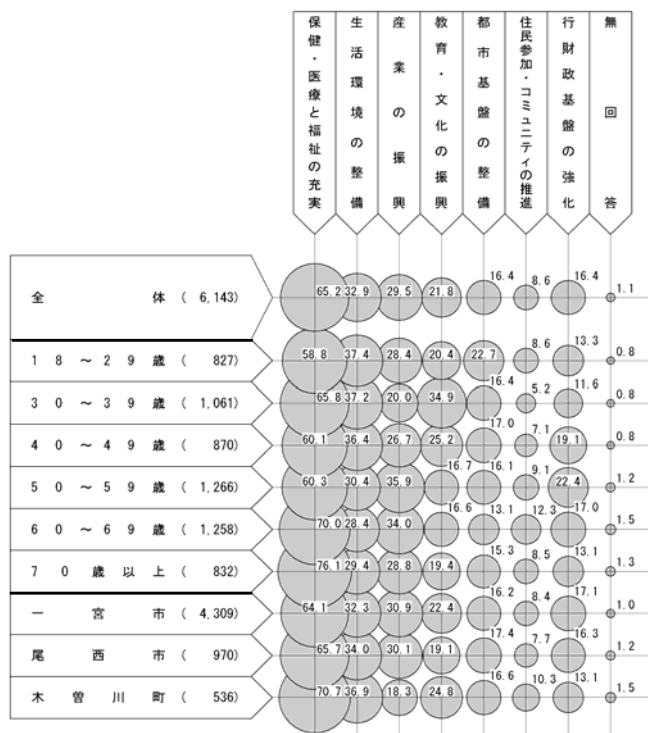


(年齢別)

高い年齢層で「保健・医療と福祉の充実」を支持する傾向が顕著です。若い年齢層から中間の年齢層では「生活環境の整備」や「教育・文化の振興」を支持する傾向があります。

(地域別)

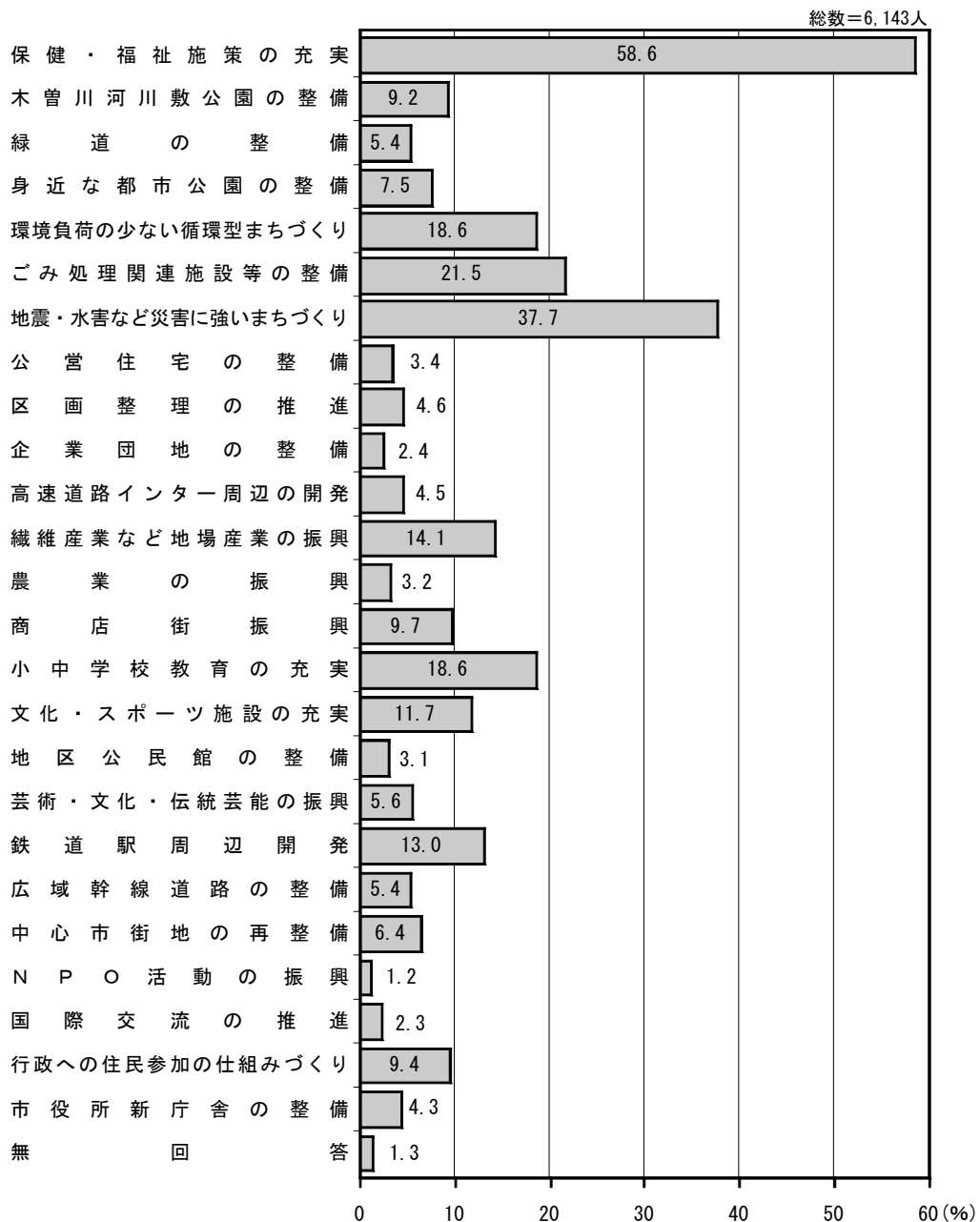
全体の傾向としては、どの地域もおおむね同じですが、「木曾川町」では「保健・医療と福祉の充実」を支持する傾向が強く、「一宮市」と「尾西市」では「産業の振興」を支持する傾向があります。



(3) プロジェクト・施策で重要なもの

問9 現在、合併後のまちづくり計画の素案の中で、以下のプロジェクト・施策を盛り込むことが検討されています。以下の中で、重要と思われるものを選んでください。
【3つまで選んでその番号に○印】

「保健・福祉施策の充実」が6割近くと圧倒的に高い割合であり、次いで「地震・水害など災害に強いまちづくり」が約38%、次いで「ごみ処理関連施設等の整備」、「小中学校教育の充実」「環境負荷の少ない循環型まちづくり」、と続いており、暮らしにかかわる施策を支持する傾向が強いと言えます。



IV. 合併後のまちづくりについて

(年齢別)

全ての世代で「保健・福祉施策の充実」の割合がトップであり、特に高い年齢層においての支持が高い傾向にあります。「地震・水害など災害に強いまちづくり」も、全ての世代で2番目になっていますが、「18～29歳」では42%と「保健・福祉施策の充実」の約49%に迫る割合となっています。

また、「小中学校教育の充実」については、『30～49歳』の子育て期の世代において高い支持を得ており、「繊維産業などの地場産業の振興」は『50歳以上』の世代が支持する傾向が強くなっています。

(地域別)

いずれの市町においても「保健・福祉施策の充実」が約6割の支持を得ていますが、「木曽川町」、「尾西市」、「一宮市」の順で支持する割合が高くなっています。逆に「地震・水害など災害に強いまちづくり」については、「一宮市」、「尾西市」「木曽川町」の順で支持されています。ほかには「繊維産業などの地場産業の振興」は「尾西市」で高く、「商店街振興」では「一宮市」で高くなっています。「鉄道駅周辺開発」は「木曽川町」と「一宮市」で高いという結果となっており、地域特性を踏まえた施策が求められています。

	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
全 体	保健・福祉	災害に強いまち	ごみ処理関連施設	小中学校教育	循環型まちづくり	地場産業	鉄道駅周辺	文化・スポーツ施設	商店街	住民参加
	58.6	37.7	21.5	18.6	18.6	14.1	13.0	11.7	9.7	9.4
18～29歳	保健・福祉	災害に強いまち	循環型まちづくり	ごみ処理関連施設	鉄道駅周辺	文化・スポーツ施設	商店街	小中学校教育	中心市街地	木曽川河川敷公園
	48.5	42.0	21.9	20.1	18.4	17.7	13.3	12.7	9.8	9.3
30～39歳	保健・福祉	災害に強いまち	小中学校教育	ごみ処理関連施設	循環型まちづくり	文化・スポーツ施設	鉄道駅周辺	都市公園	木曽川河川敷公園	地場産業
	60.0	38.0	33.3	18.4	17.1	14.4	12.0	11.0	8.7	8.3
40～49歳	保健・福祉	災害に強いまち	小中学校教育	循環型まちづくり	ごみ処理関連施設	文化・スポーツ施設	鉄道駅周辺	地場産業	商店街	木曽川河川敷公園
	55.1	36.8	22.4	20.7	20.5	15.2	14.0	10.6	10.1	8.9
50～59歳	保健・福祉	災害に強いまち	ごみ処理関連施設	循環型まちづくり	地場産業	鉄道駅周辺	住民参加	文化・スポーツ施設	小中学校教育	商店街
	56.5	34.0	25.5	22.1	17.0	13.6	13.1	11.1	10.5	10.0
60～69歳	保健・福祉	災害に強いまち	ごみ処理関連施設	地場産業	循環型まちづくり	小中学校教育	住民参加	鉄道駅周辺	木曽川河川敷公園	商店街
	61.6	38.3	22.7	19.7	16.9	16.6	12.0	11.4	9.2	8.5
70歳以上	保健・福祉	災害に強いまち	ごみ処理関連施設	小中学校教育	地場産業	循環型まちづくり	木曽川河川敷公園	商店街	鉄道駅周辺	住民参加
	69.0	38.9	20.0	17.4	17.1	12.7	10.6	9.6	9.4	9.0
一宮市	保健・福祉	災害に強いまち	ごみ処理関連施設	小中学校教育	循環型まちづくり	地場産業	鉄道駅周辺	文化・スポーツ施設	商店街	住民参加
	57.8	38.7	21.2	18.8	18.7	13.8	13.6	12.4	10.6	9.0
尾西市	保健・福祉	災害に強いまち	ごみ処理関連施設	循環型まちづくり	小中学校教育	地場産業	木曽川河川敷公園	住民参加	文化・スポーツ施設	鉄道駅周辺
	60.1	36.7	22.6	18.5	18.4	16.1	13.4	9.8	9.7	8.1
木曽川町	保健・福祉	災害に強いまち	ごみ処理関連施設	循環型まちづくり	鉄道駅周辺	小中学校教育	文化・スポーツ施設	木曽川河川敷公園	地場産業	住民参加
	62.7	33.0	22.4	20.3	18.3	17.9	12.7	12.5	11.8	11.4

注) 上位10位までを抽出 上段:プロジェクト・施策 下段:%

<合併について>

①合併賛成、合併への期待

- 合併に賛成。
- 合併を進めるべきである。
- 住み良いまち一宮になるよう前進を。
- 合併による新市建設に期待する。
- 中核市や活気のある都市としての発展を期待する。
- 市町の生き残りのために合併を進めるべきである。
- 一歩一歩良い市にしていきたい。

②合併反対・不安や疑問

- 国の号令による合併であり、地方自治の精神から外れている。
- 大きな自治体は、市民の声が届きにくくなる心配があり反対だ。
- 周辺部は取り残されるのではないかと。
- 合併が必要かどうか疑問。
- 生活がどのように変わるのか不安。
- 行政サービスが低下するのでは。
- 今までのサービスが受けられなくなるのでは。

③合併に対する要望

- メリットとデメリットも十分に説明するべき。
- 市民の負担がどうなるのかを説明する必要がある。
- 広報等を活用して分かりやすく説明してほしい。
- 安心して暮らせるまちづくりを希望する。
- 3市町それぞれの良いところを生かしてほしい。
- 対等の精神を大切に、市町住民の融和を図ってほしい。
- 新市名に尾西市や木曾川町の人々が納得しているか疑問。
- 新庁舎は一宮駅を活用するなど、便利な場所にしてほしい。
- 現在の施設を庁舎として有効活用してほしい。
- 合併を契機に住所を短く。
- 大字や字を廃止して固有の地名は残してほしい。
- 住民投票を行ってほしい。
- 投票の数の論理で物事を決めないで少数意見にも耳を傾けてほしい。
- 住みたくなるようなまちづくりの方向を示してほしい。
- 不協和音を残さないように、十分な協議を。
- 無駄な公共事業は行わないでほしい。
- 税金の無駄遣いはやめてほしい。
- 合併記念の「箱物」等は不要。
- 住民税や、保険料、上下水道使用料などの公共料金の負担は増えないように。
- 新しいまちづくりを目指しても、それにより住民の負担がないように。

<各分野のまちづくりについて>

①保健・医療と福祉の充実

- 福祉政策の充実や高齢者にとって住みやすい地域づくりに努めてほしい。
- 高齢者が困らない道路や駅にすれば、障害者にもやさしいものとなる。
- 障害者がもっと外に出て、まちに溶け込めるような活動を活発に。
- 高齢者・身近な人々の交流の場として公民館の開放を。
- 小児・高齢者を中心に医療の24時間体制を。
- 子育て中は一宮が住みやすいと評判であり、その積極的なPRを。
- 病児保育などワーキングマザーに優しい政策を。
- 児童手当の受給資格の枠を広げ、金額も上げてもらいたい。

V. 自由意見

②生活環境の整備

- ごみの回収場所が遠く、高齢者が持っていくのが困難である。
- リサイクル運動を進め、きれいな都市に。
- 地震で家屋倒壊の恐れのある世帯に助成する制度を。
- 防災訓練をもっと市民ぐるみで。
- 散歩などをする人に帽子・腕章などをつけて防犯パトロールを兼ねてもらふ運動を。
- 豊かな木曾川の流れをいかした生活環境を築く。
- 緑豊かな公園や自然循環型の森林を作る。
- 市内全域にわたり下水道整備を早急に。
- 公園等は安全性を優先して整備してほしい。

③産業の振興

- 繊維のまちとして「服を買うなら一宮」といわれるようになってほしい。
- 糸や布生地を研究開発し、付加価値の高い製品をつくり世界の一宮を目指す。
- 企業団地の整備や企業の積極的誘致を。
- 生活に必要な大型商業施設を誘致。
- 交通の便が良く、人が多く住めるまちづくりなどに目を向ける。
- 人の集いやすいテーマパークなど、買い物と娯楽の複合施設があると良い。

④教育・文化の振興

- 温水プール、スポーツジムなどのスポーツ施設を充実。
- 図書館や映画館などの文化施設の充実を。
- 図書館をもっと大きく。
- 高齢者に生涯学習の機会を。
- 少人数学級を実現して、ゆとりのある教育を。
- 小中学校区の見直しや、学校を選べるようにしてほしい。
- 教養や道徳心のある人づくりを、心豊かな人づくりをしてほしい。
- 大学がないので誘致してほしい。

⑤都市基盤の整備

- 一宮駅を玄関口として人が集まる場所として整備。
- 都市内の道路のつながりを見直す。
- 段差をなくすなど人にも配慮した道にしてほしい。
- 高齢者のためにも公共交通の便を良くしてほしい。
- 循環バスのルートを周辺にも伸ばす。
- 周辺部の開発にも配慮してほしい。

⑥住民・コミュニティの推進

- 市政への住民参加の仕組みづくりを。
- 自己責任を持つ自立した市民づくりをするべき。
- まちの美化や防犯などのためのボランティアを立ち上げる。

⑦行政基盤の強化

- 議員や職員の数を少なくする。
- 新市の議員報酬を適切にしてほしい。
- 財政の透明化をはかり地域住民に必要なものを見極める。
- 税金の無駄遣いはやめて市民が納得できるような行政を。
- 安易な起債は控え、事業計画を考え直すことも必要。
- 特に教育と保健・福祉の垣根を取り払い、総合的な行政サービスを。
- 民間企業のように懇切丁寧な対応を。

